

未知の分野にもチャレンジ精神で

三菱電機株式会社 生産技術センター
構造化技術推進部 構造適合化グループ

上田 智史

私は2006年に工学研究科生産科学専攻を修了し、三菱電機株式会社に入社しました。職場はJR大阪駅から宝塚線で15分ほどの塚口駅の近くにあります。大学に比較的近いこともあるのか、同じ建物内にある先端技術総合研究所と併せて、阪大出身の先輩方が非常に多く在籍しています。

所属する生産技術センターは、製品の設計・製造に関わる普遍的な技術を開発し、製作所に展開することをミッションとしています。当社では家電、社会インフラ、産業用機械など、幅広い分野の電気機器を全国各地の製作所で製造しているため、多様な製品の多様な課題が日々、職場に持ち込まれます。これらの課題に対する関わり方は人それぞれで、いくつかの製品に同時に取り組む者もいれば、数年単位で一つの製品に取り組む者もいます。総じて言えば、他の職場より多くの製品に関わる機会があり、いろいろな製品に関わる技術者になりたいという大学在籍時からの希望が満たされ、この職場を選んでよかったと思っています。

入社して以来、私は主に粒子線がん治療用加速器に関する技術開発を担当してきました。粒子線がん治療とは陽子などのイオンを加速器により高速に加速し、照射することで体内にあるがん細胞を死滅させる治療法です。手術の必要が無く、通院で治療できることから、患者の“Quality of Life”を向上する治療法として注目されており、実施できる施設は国内で現在8施設、来年の春に2施設が開業する予定であるなど、普及が進んでいます。

この開発テーマとの出会いは唐突なものでした。私の職場では入社一年目は研修として各自が一つのテーマを持って研究をまとめるのですが、このとき私は金属材料の研究をしていました。研修が明け、これからも材料関係の業務を続けるのだろうとぼんやりと思っていた3月末のある日、上司に呼び出され、米国の企業と共同で加速器を開発するプロジェクトがあり、二年目からはその業務を担当するようにと告げられまし

た。最先端の技術の結晶である加速器に関わる業務につける事をうれしく思う一方、語学的にも技術的にも全く力不足の私にこのような業務が務まるのだろうかという思いに駆られました。特に米国の企業は契約に厳しく、契約に書いていないことは全く対応しないとか、すぐに訴訟になるなどというイメージがあり、下手をすれば会社に大きな迷惑をかけてしまうのではないかと不安になりました。

それから一週間後の初めての米国出張で、不安が現実になりました。当然ではありますが、付け焼き刃の勉強では全く対応できず、同行者と先方の話をただ眺めるだけの出張になってしまいました。もっとも、契約に関わるような話には全く加わることが出来なかったのも、その点に関しては杞憂でしたが。

それから数回は会議の場ではほとんど発言できない出張が続きました。やることといえば現場で進捗状況を確認したり、分からないことを聞いたりするくらいで、それも相手の邪魔にならないようにと控え目にしていました。しかし、相手の会社の従業員は非常にフレンドリーに接してくれ、私が理解できるようゆっくり話し、私のつたない英語も一生懸命理解しようとしてくれました。特に技術的な質問については、彼らが国立研究所をリタイアした研究者達であったためか、自分の発見や工夫の自慢を交えてうれしそうに何度も説明してくれました。このような態度に触れ、私も徐々に彼らとの会話を楽しめるようになりました。会話することに慣れたことで、会議の場でも臆せず発言できるようになり、プロジェクトの後半には会議を主催することもできるようになりました。

コミュニケーションが取れるようになったことで、彼らの仕事に対する姿勢も分かるようになりました。よりよい製品を目指してやるべきことをやる。こちらの提案に耳を傾けよい方法を一緒に考える。という彼らの姿勢は、契約重視で対立を厭わないという私の先入観とは全く異なるものでした。

実際には困難なことも多くあり、厳しい態度で話し合う場面もありましたが、無事製品は完成し、所定の性能を達成することができました。入社後初めて関わった製品が形となり、大きな感動を味わうことができました。達成後に関係者で乾杯し、飲んだビールの味は一生忘れることは無いと思います。

当初は右も左も分からない状態で不安も多く、辛い思いもしましたが、このプロジェクトを経験することで成長できたと思います。特に先入観に囚われ自分の

殻に閉じこもるよりも、思い切って行動することの重要性を学びました。現在、私の業務は新たな分野の技術開発に移っており、今後も未経験の分野や新しい人間関係の中で業務に取り組む機会が多く出てくると思います。そのような時は、今回のプロジェクトで得た教訓を活かし、自分が成長するチャンスととらえて積極的に挑戦して行きたいと思います。

(生産 平成 16 年卒 18 年前期)

母校教員異動

(平成 22 年 11 月 1 日付迄)

専攻名	職名	氏名	卒業学科年度	異動年月日	異動内容
精密・応物	教授	高原 淳一	—	22. 10. 1	昇任 (基礎工学部准教授から)
精密・応物	助教	川合 健太郎	—	22. 10. 1	採用 (早稲田大学助手から)
電気電子情報	助教	木村 千春	電気 H9, 11, 14	22. 10. 31	㈱リコー研究員へ
機械	講師	中村 摩理子	機械 H13, 14, 17	22. 11. 1	採用

第39回吹田祭 大阪大学工業会杯争奪綱引き大会

10月25日(月)～11月5日(金)、吹田キャンパスにおいて「第39回大阪大学吹田祭」が開催され、大阪大学工業会のPR活動の一環として吹田祭に協賛し、『綱引き大会』(10月29日)の入賞賞品を贈呈しました。

熱戦が繰り広げられ、優勝は「応用化学専攻」、第2位「電気電子情報工学専攻(電子情報)」、第3位「地球総合工学専攻(船舶海洋工学コース)」でした。